

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	彩都西中学校ブロックでの連携組織を確立させる。	「見合う・知り合う」 ○彩都西中学校で合同授業研 12月6日(水)中1年 ○小小交流(彩都カーニバル、運動会の見学、連水連運に向けて) ○小中連携(体験授業・部活見学) ○ブロック連携会議(月1) ○小学校への出前授業 ○他校の校内研修への参加	「目標と共通実践の決定」 ○清溪小学校で合同授業研 ○小小交流 ○小中連携 ○ブロック連携会議(月1) ○小学校への出前授業 ○合同研修会 ○連携担当者以外の担当者会を行う ○他校の校内研修への参加	「実践より、成果と課題」 ○彩都西小で公開合同授業研 ○小小交流 ○小中連携 ○ブロック連携会議(月1) ○小学校への出前授業 ○合同研修会 ○各担当者会議 ○他校の校内研修への参加 ○9年間のカリキュラムの見直し、実践後の成果と課題
確かな学力の育成	自ら学び考え、仲間とともに生き生き活動する子を育てる	① 確かな学力の育成 ◎確かな学力の共通認識 ・基礎基本的な力 「読み・書き・計算」 ・コミュニケーション力 ・聞く力(態度・姿勢) ・思考力(考える力) ・生活に生かせる応用力 ② 豊かな人間性の育成 ③ 小中連携の活性化	① 確かな学力の育成 ◎確かな学力の共通認識 ・基礎基本的な力 「読み・書き・計算」 ・コミュニケーション力 ・聞く力(態度・姿勢) ・思考力(考える力) ・生活に生かせる応用力 ② 豊かな人間性の育成 ③ 小中連携の活性化	① 確かな学力の育成 ◎確かな学力の共通認識 ・基礎基本的な力 「読み・書き・計算」 ・コミュニケーション力 ・聞く力(態度・姿勢) ・思考力(考える力) ・生活に生かせる応用力 ② 豊かな人間性の育成 ③ 小中連携の活性化
豊かな人間性を育む	自己有用感・自尊感情・違いを認めあう子の育成。地域を知ったり、関わったりして、つながりを深める。	「取組みの実践・交流」 ◎系統立てた年間カリキュラム作成 ◎集団づくり計画 ◎実践交流会 ◎地域との連携 ◎自文化理解を深める ◎同和教育の研究と実践。	「六年間を見通したカリキュラづくり」 ◎年間カリキュラム見直し ◎集団づくり計画 ◎実践交流会 ◎地域との連携 ◎自文化理解を通し、多文化理解を深める。 ◎同和教育の研究と実践。	「実践の成果と課題」 ◎年間カリキュラムの実践後の成果と課題。 ◎集団づくり計画 ◎実践交流会 ◎地域との連携 ◎自文化理解を通し、多文化理解を深める。 ◎同和教育の研究と実践。
健康・体力の増進	運動をすることが好きな児童を全国平均より増加させる。	◎学校として体育科学習のカリキュラムと評価の一体化を迫及する。 ◎授業力の向上に努める。 ◎茨木っ子運動の継続。 ◎運動習慣の確立に向けた取組みの検討。 ◎食育の推進。	◎授業と評価の一体化を迫及。 ◎授業力の向上に努める。 ◎茨木っ子運動の継続。 ◎運動習慣の確立に向けた取組みを実施。 ◎食育の推進。	◎カリキュラムと評価を実施。 ◎授業力の向上に努める。 ◎茨木っ子運動の継続。 ◎運動習慣の確立に向けた取組みを実施。 ◎食育の推進。
支援教育の充実				

2 今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

〇●国語●〇

<p>国語A (領域ごと)</p> <p>①話すこと・聞くこと 概ね良好な結果であった</p> <p>②書くこと 概ね良好な結果であった</p> <p>③読むこと 良好な結果であった</p> <p>④言語事項 良好な結果であった</p> <p>(問題形式)</p> <p>① 選択式 概ね良好な結果であった</p> <p>② 短答式 概ね良好な結果であった</p> <p>③ 記述式 該当の問題なし</p> <p>(無解答率) 良好な結果であった</p> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none">・言語事項の漢字の読みの正答率が高い。 反面漢字を書くことの正答率が低くなっている。・文の主語として適切なものを選択する力の正答率が他と比べて低くなっている。・手紙の後付けを書くことが全国と同様に正答率が低く課題が残る結果となっている。	<p>国語B (領域ごと)</p> <p>①話すこと・聞くこと 良好な結果であった。</p> <p>②書くこと 良好な結果であった</p> <p>③読むこと 概ね良好な結果であった</p> <p>④言語事項 (該当の問題なし)</p> <p>(問題形式)</p> <p>① 選択式 概ね良好な結果であった。</p> <p>② 短答式 大変良好な結果であった</p> <p>③ 記述式 概ね良好な結果であった。</p> <p>(無解答率) 概ね良好な結果であった</p> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none">・自分の考えを書きまとめることには課題が残る。・話すこと・聞くことの正答率が高い。
---	--

分析

- ・国語 A、国語 B とも全国・大阪府を上回り、良好な結果であった。
- ・基本的に言語事項が良くできている。
- ・漢字の書きとりを苦手とする児童が低位層に若干名見られる。学習した漢字は普段から意識して使う指導が必要である。同音異義語を扱うなど語彙を増やす指導を低学年から行う。
- ・文章全体を読み取り、要約し解答を導き出す力を伸ばすための練習が必要である。
- ・自分の考えをまとめることに苦手意識を持ち、無回答になっている層に対しては、普段から自分の考えを出す場作りが必要である。
- ・文章にして話す力、作文にして書く力、プレゼンなどで表現する力、要点を簡潔にまとめる力を伸ばす授業づくりが必要である。
- ・児童がより能動的に学習することができる授業を行う。

○●算数●○

算数A

(領域ごと)

- ① 数と計算
良好な結果であった
- ② 量と測定
大変良好な結果であった
- ③ 図形
良好な結果であった
- ④ 数量関係
良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式
大変良好な結果であった
- ② 短答式
良好な結果であった
- ③ 記述式
該当の問題なし

(無解答率)

(その他)

- ・乗法で表すことができる二つの数量の関係を表す問題の正答率が最も高い。
- ・加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする問題の正答率が低い。
- ・資料から二次元表の合計欄に入る数を求める問題の無解答率が高い。
- ・全体的に無解答率は低い。

算数B

(領域ごと)

- ① 数と計算
大変良好な結果であった
- ② 量と測定
良好な結果であった
- ③ 図形
良好な結果であった
- ④ 数量関係
大変良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式
良好な結果であった
- ② 短答式
良好な結果であった
- ③ 記述式
大変良好な結果であった

(無解答率)

(その他)

- ・示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを図に表現する問題の正答率が最も高い。
- ・身近なものに置き換えた基準量と割合を基に比較量を判断しその判断の理由を記述する問題の正答率が最も低い。
- ・二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述する問題の無解答率が最も高い。
- ・記述式問題形式で正答率が低い問題があり、無解答率が高い

分析

- ・算数A、算数Bともに全ての区分で全国・大阪府平均正答率を上回っている。
- ・問題形式に記述式がない算数Aについては正答率が高い問題が多くある。一方で記述式の多い算数Bにおいては正答率が全体的に低くなっている。
- ・短答式の四則計算については正答率が高く、無解答率が低い。計算に必要な情報を読み取る力や一般化する力をつけていく必要がある。
- ・問題解決型学習を中心とした学習形態に取り組み、「めあて」「見通し」「自力解決」「交流・発表」「練り上げ」「ふりかえり・まとめ」という流れを授業スタンダードとし、授業の流れが書かれた「算数名人」の活用もしている。自力解決の時間を有効に使えるよう、日頃から児童が意欲をもてる課題設定にするとともに児童が自分の言葉でしっかりと説明できる力をつけられるよう授業改善を行う。
- ・算数Bでは特に無解答が目立つ。日常生活の中にある算数の問題だが、文章が長文で読み取ることに時間を要している。数学的な考え方ができ、文章を最後までしっかりと読みきる力をつけていく。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

- ・算数・国語と、全ての区分で全国・大阪府平均正答率を上回っている。
- ・無解答率は、算数・国語ともに全国平均より低い。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・算数は A・B ともに学力低位層の割合は低くなり、学力高位層の割合は高くなっている。ただし、国語は A・B ともに学力高位層の割合が低くなっている。
- ・エンパワー層は、昨年度より少し減少している。

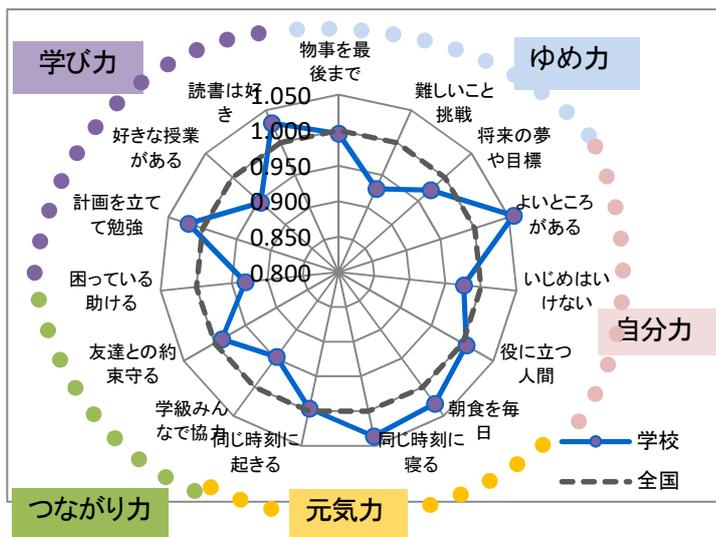
〇●取組み●〇

学力向上に関する取組み

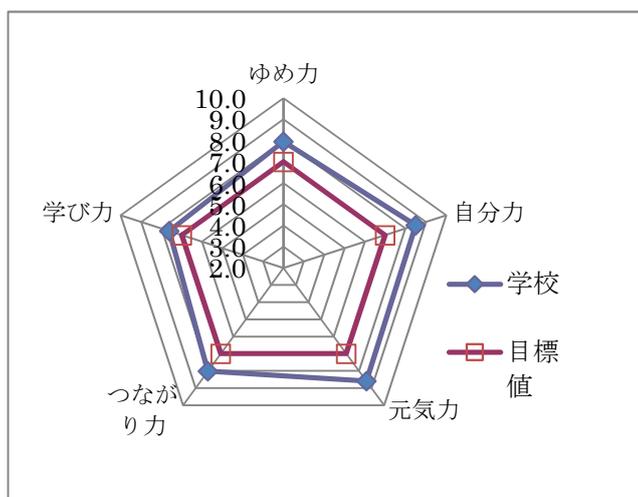
- ・国語や社会、総合では資料活用・資料づくりを通して人に伝える力、プレゼンテーション力をつけている。また、委員会などの活動を通して、各学年に発信することも行っている。
- ・新出漢字について 一度覚えた漢字は間違えていてもなかなか訂正できない児童がいるので、最初に丁寧に教える。
- ・思い込みで漢字ドリルなどの書き取り練習をし、漢字を間違える児童もいるので、見本をよく見て書くよう意識させる。
- ・算数では、図形などの単元において、視覚的に子どもたちが理解できるように授業の準備物を作成している。手元にも同じものを用意して、わかりやすいノートづくりを心がけている。
- ・低学年から具体物を操作する活動や、体験的な活動を多く取り入れ、数や量の感覚を身に着けるようにする。
- ・機械的に数だけを見るのではなく、図でも考えることができるように指導する。
- ・問題解決型学習を継続していく。
- ・振り返りを授業の終わりに書かせ、自分が理解できているかどうか考える時間を作り、振り返りを見て授業力向上に努める。
- ・国語・算数だけに限らず、自分の考えを書く機会をとる。
- ・これからも45分の授業をきちんと使って、めあて、振り返りの授業の流れを大切にしていく。
- ・系統立てて、積み上げを大切にしていく。
- ・ICT 機器を有効に活用し、わかりやすい授業に取り組んでいる。
- ・積極的にゲストティーチャーを呼び、様々な人との出会いを通して、人から学び心が動かされるような場面を設定している。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



分析

《ゆめ力》

- ・人の役に立つ人間になりたいと思う児童は全国平均だが、将来の夢や目標を持っている児童が少ない。

《自分力》

- ・「自分の良いところがありますか」のポイントが高い。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけない」と回答している児童が全国平均を下回っている。また、学校の決まりを守っていない児童も多い。

《つながり力》

- ・学級やみんなで協力して何かをやり遂げ、嬉しかった経験が少ない。また、困り感を上手に表現することが苦手で、周りも気づいてあげられず、助ける事ができない。自分にいい所があると思っている児童が多いが、他者との関わりが積極的ではない。

《学び力》

- ・学習や読書は積極的にしている児童が多いが、「好きな授業がありますか」のポイントは低い。

《元気力》

- ・多くの児童が、毎朝同じくらいの時刻に寝起きし、朝食を毎日食べて規則正しい生活ができている。

取組み

《ゆめ力》

- ・誰かの役に立ちたいという想いが、夢へとつながるように、今後も夢を持ち現実に近づけるような授業、学級集団作りに取り組む。

《自分力》

- ・彩都カーニバルや参観に向けてなどで、自分たちで作り上げていくことを学んでいる。
- ・人権週間には作文や標語、ポスターに取り組んでいる。また児童会活動等とリンクさせながら、いじめは何があっても許さないという意識をより一層強く持たせていく。

《つながり力》

- ・学級や学年みんなで協力して何かをやり遂げる楽しさを感じとれるような集団作りに取り組む。
- ・学級・学年・学校全体など人と関わる機会を意図的に作っていく。
- ・彩都カーニバルやなかよし集会を通じて、異学年交流をすすめていく。

《学び力》

- ・授業では積極的に参加できるよう、ペア学習や班学習を取り入れ自分の意見を友達の前で発言できるような授業作りに取り組む。

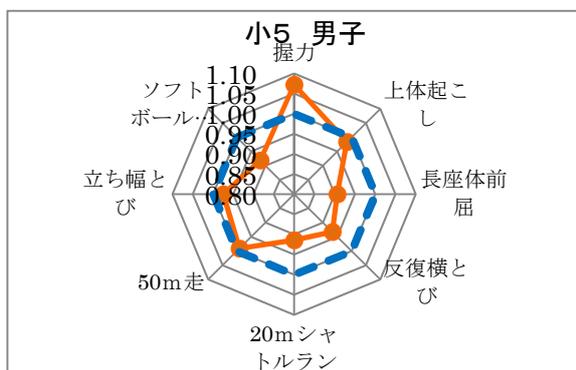
《元気力》

- ・学校規律や、給食、掃除などの学校生活を気持ちよく過ごせるよう、どの学年でも指導していく。

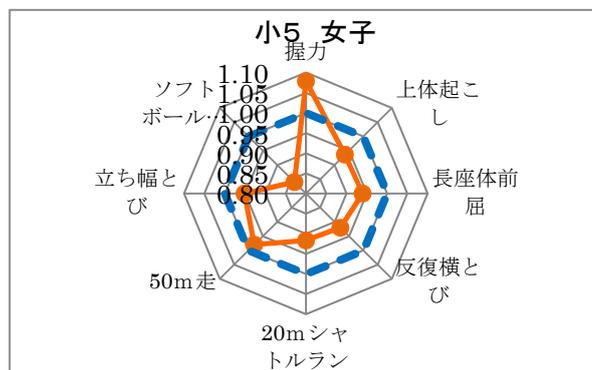
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

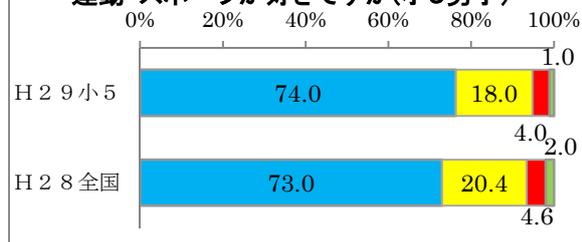
男子 (小5)



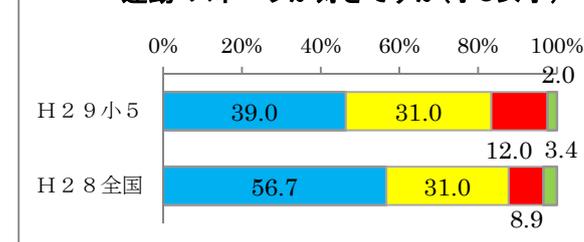
女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

分析

- ・総合的に全国と比べて低い。その中でも
 - ① 上体起こし・20mシャトルランが男女ともにポイントが低い。(筋持久力・全身持久力が不足している。)
 - ② 長座体前屈のポイントも低く、柔軟性に課題がある。(身体が固い。)
 - ③ 50m走は全国と比べても遜色ないが、反復横跳びのポイントが低い。(切り返しの脚力、敏捷性が低い。)
 - ④ 習い事をしている児童としていない児童とのポイントの差が激しい。

- ・昨年度と比べて、
 - 投げる領域のソフトボール投げについては、男女ともに少し改善がみられた。
 - 握力は全国と比べてもポイントが高い。

このことから、筋力量は十分にあると考えられるが、それを使いこなすための経験値や運動量・技術が足りていない現状であるといえる。

取組み

- ・「耐寒マラソン週間」「なわとび朝会」を続けていき、次につながるよう、目標設定のしやすい取り組みをすすめる。
- ・児童が自主的に行えるよう委員会活動として、新たに体づくり運動に取り組む。
- ・体づくり運動は特に全学年で重点的に行い、けが防止のためにも柔軟性を高めていく。全学年で茨木っ子運動を実施。
- ・日常生活や、遊びの中での体づくりを提案していく。(20分休みや昼休みなど)
- ・授業の中で多様な動きを沢山経験させ、子どもたちが楽しい、もっと動きたいと思える授業づくりに励む。
- ・つまづく児童を想定して、指導方法を工夫し、改善していく。